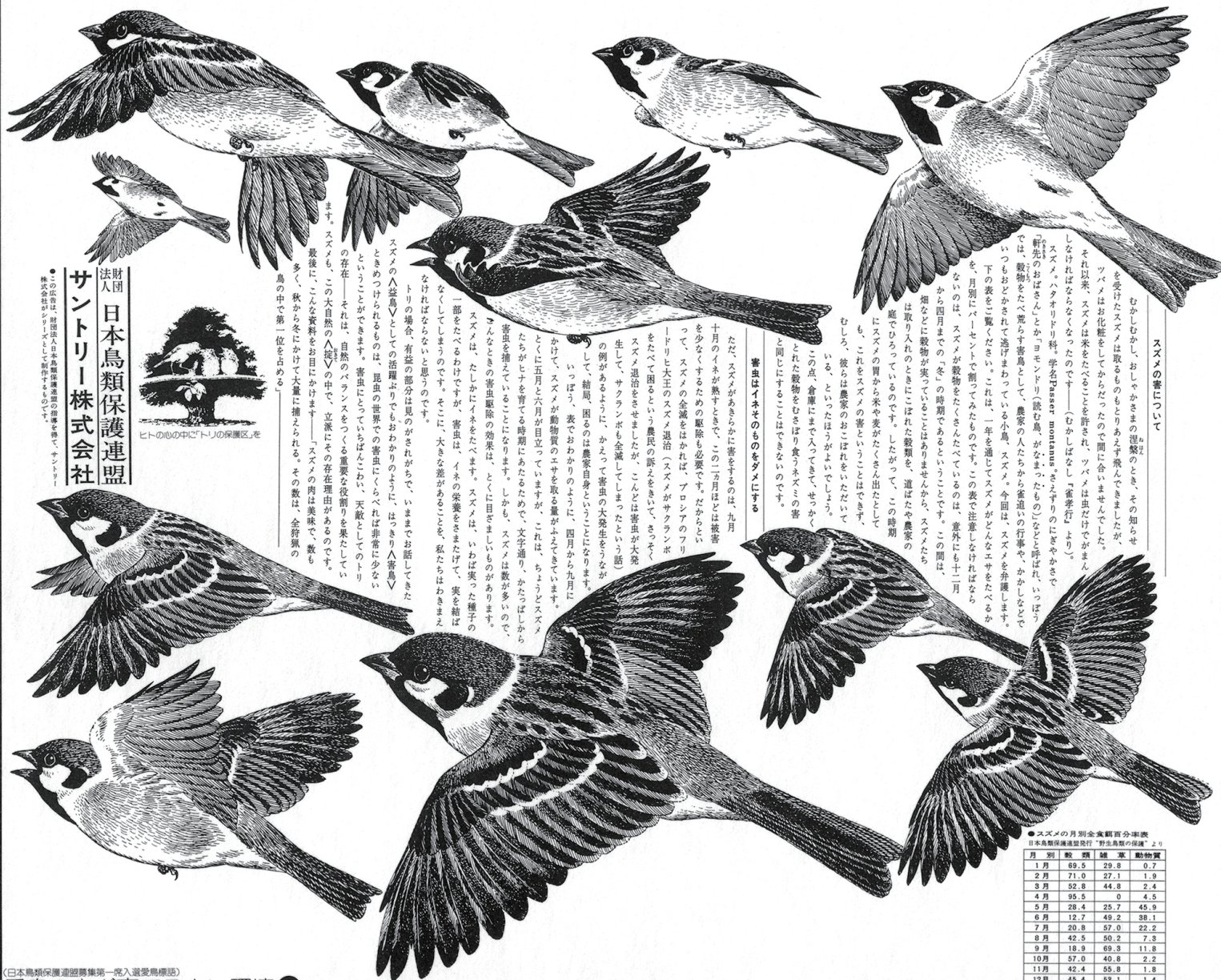


スズメ 堂々と飛びなさい



スズメの害について

むかしむかし、おしゃかさまの遊覧のとき、その知らせを受けたスズメは取るものとりあらず飛んできましたが、ツバメはお化けをしてからだったので間にもいませんでした。それ以来、スズメは米をたべることを許され、ツバメは虫だけで満足しなければならなくなったのです（むかしはなし「雀奉行」より）。

スズメハタオリドリ科、学名Fusca montana、さすりのにぎやかさで「新先のおばさん」とかヨモドリ（跳び鳥）がなまったものなどと呼ばれ、いっぽうでは、穀物をたべ荒らす害鳥として、農家の人々から雀の行状や、かしこいなど、いつもおどかさされて追まわっている小鳥、スズメ。今回は、スズメを丹念に捕まえて、下のおさげをくわえ、これは、一年を通じてスズメがどんなエサをたべるかを、月別にパーセントで割ってみたものです。この表で注意しなければなら

ないのは、スズメが穀物をたくさんたべているのは、意外にも十一月から四月までの「冬」の時期であるということです。この間は、畑などに穀物が実っていることはありませんから、スズメたちは取り入れのときにこぼれた穀類を、道ばたや農家の庭でひろっているのです。したがって、この時期にスズメの胃から米や麦がたくさん出たとしても、これをスズメの害ということはできません。むしろ、彼らは農家のおこぼれをいただいている、といったほうがよいでしょう。

この点、倉庫にまで入ってきて、せっかくとれた穀物をむさばり食うスズメの害と同じにすることはできないのです。

害鳥はイネそのものをダメにする

ただ、スズメがあきらかに害をするのは、九月十月のイネが熟するときで、この二月ほどは被害を少なくするための駆除も必要です。だからといって、スズメの全滅をはかれば、プロシヤのフリードリヒ大王のスズメ退治（スズメがサクラソコをたべて困るといふ農民の訴えをきいて、さっさとスズメ退治をせよ）が、こんどは害鳥が大発生して、サクラソコも全滅してしまったという話の例があるように、かえって害鳥の大発生をうながして、結局、困るのは農家自身ということになります。いっぽう、表でおわかりのように、四月から九月にかけて、スズメが動物質のエサを取る量がふえています。これは、ちょうどスズメたちがヒナを育てる時期にあたるためで、文字通り、かたづけから害鳥を捕まえることになりました。しかも、スズメは数が多いので、こんなときの害鳥駆除の効果は、とくに目ざましいものがあります。

スズメは、たしかにイネをたべます。スズメは、いわば突っただけの種子の一部をたべるわけですが、害鳥は、イネの栄養をきいて、実を結ばなくしてしまうのです。そこに、大きな差があることを、私たちはわきまをなければならぬと思ふのです。

トリの場合、有益の部分が見のがされがちで、いままでお話ししてきたスズメのハ益鳥としての活躍ぶりでもおわかりのように、はたしてハ益鳥といふことができません。害鳥にいついちはんぐわい、天敵としてのトリの存在、それは、自然のバランスをつくる重要な役割を果たしているのです。スズメも、この大自然のハ益鳥の中で、立派にその存在理由があるのです。

最後に、こんな資料をお目にかけます。「スズメの肉は美味で、数多く、秋から冬にかけて大量に捕えられる。その数は、金鵒の鳥の中で第一位を占める」



ヒトの心の中に「トリの保護区」を

財団法人
日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●スズメの月別全食餌割合率表

月別	穀類	雑草	動物質
1月	69.5	29.8	0.7
2月	71.0	27.1	1.9
3月	52.8	44.8	2.4
4月	95.5	0	4.5
5月	28.4	25.7	45.9
6月	12.7	49.2	38.1
7月	20.8	57.0	22.2
8月	42.5	50.2	7.3
9月	18.9	69.3	11.8
10月	57.0	40.8	2.2
11月	42.4	55.8	1.8
12月	45.4	53.1	1.4

（日本鳥類保護連盟第一巻入選愛鳥雑誌）

愛鳥の心が育てるよい環境 17

●美しい自然―「庭に小鳥を」のパンフレットをさしあげます。ご希望の方は送料として切手55円分同封のうえ、右記まで送ってください。〒103-81 東京都中央区日本橋馬場内私書箱第231号 サントリー株式会社 愛鳥キャンペーン係

49.9-A-5A06